

■総合計画に反映

項目	意見内容	会場	事務局回答(当日)	対応内容
茅ヶ崎市の主要課題	「できることを取捨選択していく」という表現には、「こうしたい」という茅ヶ崎市としての意思が感じられない。 また、各政策目標について、過去からのつながりが見えない。	香川公民館	茅ヶ崎市が抱えている課題は24～26ページにまとめて記載してはいるが、評価結果を集約してここに落とし込んだため、細かい部分の流れは読み取れないかもしれない。補強したい。	主要課題の抽出にあたり、これまでの取り組みに対する評価結果等を踏まえていることを追記しました。また、P 35に主要課題と政策目標の対応関係図を掲載しました。
将来の都市像政策目標7	茅ヶ崎市に今後大企業がくるとは思えないし、商業も農業もない、観光といってもそれほど魅力があるわけでもないという中で、結局、住宅都市としてどうしていくのか、空き家をどうしていくのかという具体策を出さなければならないのではないのか。	香川公民館	ご指摘のとおり企業誘致も、商業も農業もなかなか厳しい状況だが、そういった中でまちをどうやって維持していくのが大きな課題であると認識している。具体的な部分は実施計画に記載することにはなるが、総合計画にどう描くべきなのか、検討していきたい。	空き家対策を含めた住環境の維持の取組は政策目標5、都市としての魅力を高めるための空間づくりは政策目標7に追記をしました。
政策目標-行政経営	まちづくり推進のところで、NPOやボランティアの各種の団体と連携してやるというように書かれているが、新しい若いボランティアはなかなか入ってこない。 働く世代で40代、50代ぐらいの方にボランティアに参加していただきたいが、なかなか増えないという現状がある。 今後は横ばいということを期待するのは非常に難しく、減少するのではないかと心配をしている。 維持することができるかということが問題なのではないかと感じている。	松林公民館	いろいろな団体が若い世代を欲しいのに、メンバーに加わってくる人が少ないという悩みを抱えているところはあると思う。 どんなボランティアなのか、どんなジャンルなのか、どんな活動をしているのか、いつ頃活動をしているのかということでも差があるかもしれないが、自らの活動をどんどんアピールしていただき、いろいろな人に活動を知ってもらうことが入口かと思っている。	政策目標3及び5で、担い手の確保に向けた方向性を追記しました。
総合計画全般政策目標5 政策目標-行政経営	抽象的でどこに書いても同じではないか。中身が曖昧で、どうにでも解釈できる。難しい言葉が多く、イノベーションや地域の活性化という言葉があっても、それが何を意味しているのか、文章の前後を読んでも何を言っているのかわからない。持続可能なまちづくりとは、茅ヶ崎にとって何を意味するのか、何も書いていない。市民憲章は消えてしまったのか。 典型的な自然が、年々損なわれていて、ますます悪化している状況の反省が何も書かれていない。そういったことに基づいて書いたとあるが、どこに書かれているのか。 自治基本条例の市民主権の仕組みをどう作っていくのかだと思ふ。市民参加という言葉は書かれているが、その質の評価はされていない。総合計画が形式的なものになってしまっている。本日説明があった茅ヶ崎の状況に関する資料も一緒に出して、そういったことを含めて市民が検討できるものにしてほしい。記述全体については、市民がわかるように曖昧さをなくし、定義をしっかりと、政策的に判断できるようにしていただきたい。 工場誘致などの意見もあったが、茅ヶ崎らしい、身の丈にあった内容にすべきである。安心安全、市民の健康、市民参画を大切にすることが重要。	市役所 (10月3日)	定義が不明確であることや、他の自治体を持っていても通用するのではない意見が他の会場でもあり、今後、検討していく。身の丈にあった中での重点化について指摘があったが、そうしていきたい。	持続可能なまちのイメージが持てるよう、「2030年のありたい姿」に「幅広い世代の定住が促進され、多世代バランスのとれたまち」と追記しました。また、全体的に表現を見直して、分かりやすい箇所等は随時、修正していきます。
総合計画全般政策目標-行政経営	主要課題と政策目標は対応しているとのことだが主要課題が8、政策目標が7と数も異なり、この対応を理解するのに時間がかかった。この課題に対してこれが対策だと、市民にもわかりやすく記述してほしい。 特に知りたいのは、プライオリティである。安全・安心の確保に対する記述があまりないのが気になる。 二つ目は、超高齢化社会への対策とあるが、今後急激に税収入は減る。公共施設をどうするのか。2024年前後をとって心配している。その状況と財政の状況の関係がわからない。それをしっかりと押さえてほしい。 三つ目に、未来に拓く人材の育成とあり、総合計画の作成に外部の力を利用しているが、金額を3,000万円近くかけてやっている。こういう大事な仕事は、内容は十分でなくてもいいから、企画部の方が中心になってやるべきだと思う。この内容には足がなく、八方円満で、泥臭さがない。結局のところ、市としてどうしたくて、市民に何をしてもらいたいのか。また、市長の演説でも、市長の方針と総合計画の関連性がわかりにくい。	市役所 (10月3日)	内容がわかりにくいという話があったが、総合計画では落としてしまう分野があてはいけないため、網羅的になってしまっている。その点については、実施計画で明らかにしたい。高齢社会の中では、人口増加の時代で提供してきたサービスがすべてできるとは思わない。工夫していく必要があり、施設の建て替えにおける複合化なども考えていく必要があると考えている。市長の方針は、総合計画が出来た際には、その体系に沿ってつくることとなり、直接的にコメントが出てこなくても、市長の方針の柱立てはそれに沿っていると思う。	主要課題の抽出にあたり、これまでの取り組みに対する評価結果等を踏まえていることを追記しました。また、P 35に主要課題と政策目標の対応関係図を掲載しました。
政策目標3	社会保障制度の適正な運営という中で、我々のような年金をきっちり収めてきた人たちは今そのおかげで支障なく生活できているが、若い世代で年金を未納な方がいる。そういう方は将来どうするのかと心配している。その時に、「生活困窮者の生活安定に向け、支援を実施します」という表現が気になった。困窮者の支援というやり方だと、若い方は、年金に入らなくても将来は行政が支援してくれるのだな、と受け止めるかもしれない。年金があるとこういうメリットがあるから、という言葉を入れたほうが若い人のためにもいいのではないのか。	ハマミナまなびプラザ	確かにそういう印象を受ける方もいるかもしれないと感じた。表現は今後精査させて頂きたい。	社会保障制度の適正な運営において、自立に向けた支援も必要であることから、生活安定を優先しつつも、その旨を追記しました。
政策目標3	もう一点、各地区にボランティアセンターができたが、最近、それに携わるサポーターが高齢化しており、後継者がいない。最近では65歳を過ぎてても皆働いており、地域に戻ってくるのは70歳を過ぎてからだ。そういう人に担い手になってもらうために、今後、どのようなフォローをしていく方針なのか。	ハマミナまなびプラザ	地域の担い手不足は重要な課題と認識しており、様々な多世代の参加等の仕掛けが必要になってくのではないかと、等の課題認識をしている。具体的にどのような方向性をもっていかうという点については、様々な団体等と話し合いながら行政の役割を考えたい。	政策目標3及び5で、担い手の確保に向けた方向性を追記しました。具体は実施計画や個別計画で決めていくこととなります。